

皆最勝ノ聖ヲ讚ム、法花ノ聖田ノ瓠ヲ見テ、奇異ノ思ヒヲ成シテ、一瓠ヲ取テ、破テ其ノ中ヲ見ルニ、精タル米滿テ有リ、粒大ニシテ、白キ事雪ノ如シ、聖人此レヲ見テ希有也ト思テ、斗ヲ以テ此レヲ量ルニ一ノ瓠ノ中ニ、五斗ノ白米有リ、亦他ノ瓠ヲ破テ見ルニ、每瓠ニ皆如此シ、爰ニ法蓮聖喜ビ悲テ、郷ノ諸ノ人ニ告テ、此レヲ令見ム、其後先ヅ此ノ白米ヲ佛經ニ供養シ、諸ノ僧ヲ請ジテ令食ム、又一果ノ瓠ヲ、光勝聖ノ房ニ送リ遣ル、光勝聖此レヲ見テ、妬ミノ心有ト云ヘドモ、法花ノ威力ヲ見テ悲ミ貴テ、法蓮聖ヲ輕メツル事ヲ悔テ返テ隨エ、即チ行テ禮拜シテ懺悔シケリ、法蓮聖其ノ瓠ノ米ヲ以テ、國ノ内ノ道俗男女ニ施シ與フ、人皆心ニ任セテ荷ヒ取ル、然レドモ瓠尙十二月ニ至ルマデ更ニ不枯ズシテ、取ルニ隨テ多ク成ニケリ、此レヲ見聞ク人、法花經ノ威力ノ殊勝ナル事ヲ知テ、法蓮聖ヲ歸依シケリトナム、語リ傳ヘタルトヤ、

〔宇治拾遺物語〕^三今はむかし、春つかた日うら、かなりけるに、六十計の女のありけるが、虫うちとりてゐたりけるに、庭に雀のしありきけるを、童部石をとりてうちたれば、あたりてこしをうちおられにけり、羽をふためかしてまどふほどに、鳥のかけりありきければ、あな心うからす取てんとて、此女いそぎととりて、いきしかけなどして物くはす、略中あからさまに物へいくとも、人に此すゞめみよ、物くはせよなどいひをきければ、子まごなど、あはれなんどう雀かはる、とて、にくみわらへども、さばれいとおしければとて飼ほどに、飛ほどに成にけり、今はよも鳥にとられじとて、外にいで、手にすへて、飛やするみんとてさ、げたれば、ふらくとをびていぬ、女おほくの月比日比、くるればおさめ明ればものくはせならひて、あはれや飛ていぬるよ、又來やするとみんなどつれく、に思ていひければ、人にわらはれけり、さて廿日ばかりありて、此女のゐたるかたに、すゞめのいたくこゑしければ、すゞめこそいたくなくなれ、ありしすゞめのくるにやあらんと思て、いで、見れば、此すゞめ也、あはれにわすれずきたるこそあはれなれとい